

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年7月20日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300765号		
法人名	有限会社 三井・メディックス		
事業所名	グループホーム 上祓川		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 上祓川町 8469-1 (電話) 0994-40-5130		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市 星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月17日	評価確定日	平成21年8月15日

【情報提供票より】 (平成21年6月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人	非常勤 0人 常勤換算 8

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1階建ての ～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円
敷金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) ○無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 600 円		

(4) 利用者の概要 (6月 15日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護 1	1 名	要介護 2	1 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	5 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 91.7 歳	最低	86 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	池田病院、 井ノ上病院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの理念の下に、管理者・職員は利用者のできることを生活に活かすよう意識して支援している。できることを増やすことで、自信につながり、「笑顔で、満足、あきらめない。」その人らしい暮らしを支えるケアに取り組んでいる。排泄の間隔を確認し、トイレ誘導に努め、オムツ不要の実績をあげ、食事のときは、車椅子から椅子に移乗し生活にメリハリをつけるなど、利用者本位のケアを実践している。学習会など計画しサービスの向上に努めているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の共有については、理念をリビングの見やすい所に掲示し、パンフレットや重要事項説明書に明示し、改善している。災害対策については、年2回の訓練を実施するなど改善に取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取組状況(関連項目:外部4)
	評価の着眼点など確認しながら、職員全員で評価に取り組み、具体的な改善点や取り組んでいきたい内容など話し合っている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、町内会加入を相談し加入に繋がり、地域委員からの地域行事等の情報を得るなどしてサービス向上に活かされている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時には声かけを行い、意見や要望を聞くように努め、運営推進会議に家族代表の参加も呼びかけ、意見を聴く機会を設けている。意見は職員会議で話し合い、運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、地域の行事を見学したり参加して地域住民と交流を深めている。保育園児や中学生との交流も計画している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者のできることで、できる可能性をあきらめないで引き出していくケア、地域の中でその人らしく力を発揮できる暮らしを支えるという事業所独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をリビングの見やすいところに掲示し、個人目標も理念と一緒に表示し意義や目的を職員が共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域の行事を見学したり参加して、地域住民と交流を深めている。保育園児や中学生との交流も計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価のねらいや活用方法などを確認しながら評価に取り組み、具体的な改善点や取り組んでいきたい内容などを話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を家族代表や地域住民代表・市担当者などの参加を得て開催している。会議を活かし自治会への加入を行い、地域委員から地域行事などの情報があり、サービス向上に活かされている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より市担当者に運営やホームの実情を報告したり、課題や困難事例等を相談しながら、関係作りを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日頃の利用者の様子を個別に「ホーム便り・今月の様子」を作成し送付している。金銭管理は出納帳のコピーを定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、声かけを行い意見や要望を聞くように努め、運営推進会議には家族代表に参加を呼びかけ、意見を聞く機会を設けている。意見は職員会議で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	採用時の面接には管理者も関わり、新人職員は利用者・家族に紹介している。新人研修を実施し、利用者との馴染みの関係づくりを重視してダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、研修報告を行ない内容を共有している。毎月ホームの勉強会を実施したり、外部講師を招き研修会をするなど職員を育てる取り組みを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会の研修に参加し、他ホームの職員と交流したり、電話等で相談するなど情報交換をして、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、家族と一緒に見学を勧め、ホームの雰囲気に馴染んでもらうようにしている。施設からの入居の場合は、訪問してパンフレット等持参し、徐々に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	園芸や家事などできる事は一緒に行ない、感謝の気持ちを必ず伝えている。人生の先輩として、教えてもらいながら、学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の思いや意向を聞くように努めている。困難な方は表情やしぐさ、生活習慣や家族からの情報などを考慮し、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の要望や意向を聞き、主治医の意見などを参考に職員で話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行いサービスの内容を確認している。状態変化や家族の要望があれば随時計画を見直し、新しい介護計画を作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、早期退院を支援している。家族と相談して通院介助・受診支援・自宅訪問・墓参りなどを支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。定期受診の結果はホーム便りで報告し、急な状態変化時は電話にて連絡・報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の方針を明文化している。終末期の対応については、利用者や家族の思いを尊重し、主治医・職員で話し合い、方針を共有する体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は採用時に誓約書を交わし、個人情報保護の確保を徹底している。利用者への言葉かけや対応については学習会で振り返り、誇りやプライバシーを損ねる事のないよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事時間・レクリエーションなど、一人ひとりの生活のリズムを把握し対応している。散歩や外出など希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを聞いて、献立を決めたり、調理や盛り付け・片付けなど、職員と一緒にいき、楽しく会話をしながら食事もしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴を実施しており、利用者の希望でいつでも入浴できる。リフトを設置して浴槽にゆっくり入れるなど、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの力を活かして、野菜作り・洗濯物たたみ・調理・保存食作りの手伝いなどの役割や、テレビ観賞や歌・買い物などの楽しみ、バラの花や紫陽花・桜など季節毎に花見に出かけ、気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や買い物・ドライブに出かけたり、庭の東屋での食事会など、ホームに閉じこもらないで、戸外に出る支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけないケアを意識して取り組んでいる。外出の折は職員と一緒に付き添って出かけるなど自由な暮らしを支えている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回地区の消防団や消防組合から助言や指導を貰い、避難訓練や防火訓練を実施している。台風の前は、水や食糧を準備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を記録し個別に把握している。一人ひとりの状態にあわせ、刻み・とろみ食などを提供し、栄養バランスについては検討し対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の食堂・居間・和室・台所は広いワンフロアになっており、トイレや洗面所も車椅子対応の設備がされ使いやすい。テレビを囲みソファが配置され、ゆっくりと過ごせるように配慮され家庭的である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームが用意している。自宅で使っていた、タンスを持ち込み、お気に入りのぬいぐるみや写真・花等を飾り、入居者が安心して過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。